

グローバル社会で通用する実践的英語力を育成するために TOEIC® Programを効果的に活用する



急速に進展するグローバル社会でリーダーシップを発揮し活躍できる人材を育成するため、近年、企業から大学、さらに大学から高校へと、求められる英語力のレベルが一層高まってきています。2019年3月21日(木)に都内で開かれた「TOEIC® Program 高校英語教員向けセミナー～生徒の将来につながる英語教育とは～」では、明治大学国際連携機構の横川綾子特任准教授と静岡県立静岡城北高等学校国際科の西田大教諭に、2020年度に迫る大学入試改革への対応だけでなく、その先の生徒の将来に直接つながる実践的英語力を育成する各教育現場の取り組みについて発表していただきました。

明治大学

グローバル人材予備軍の宝庫

明治大学が進めるグローバル化戦略

1881年に設立された明治大学は、東京都内に3キャンパス、神奈川県川崎市

に1キャンパスを有する総合大学です。

文部科学省による支援事業にも数多く採択され、2014年度からは8つの取り組みからなる「世界へ! MEIJI8000」を掲げて学内のグローバル化の推進に

も力を入れています(資料1)。中でも、2023年度までに「海外留学経験者数(短期含む)年間4,000名」という目標達成に向けては、各プログラムに応じた留学奨励助成金や単位の付与、事前の語学教育に関する制度を整備。その理由について、横川特任准教授は「約32,000名が在籍する本学には、憧れや希望はあるけれども、なかなか自発的に海外に行ったり、グローバルな思考を身に付けようとして動いたりすることができない学生が数多くいます。つまり、将来のグローバル人材「予備軍」が多いということ。そこで、彼らのチャレンジを後押ししようと、大学でも様々な支援を充実させてきました」と説明します。

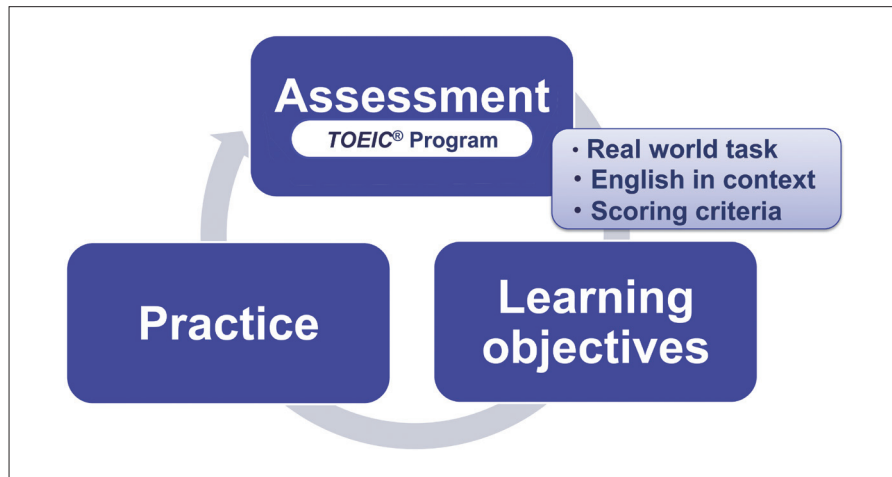
(資料1) 明治大学のグローバル戦略





明治大学国際連携機構の横川綾子特任准教授

(資料2) アセスメントとしての品質



学生の学びのサイクルにおいて、現在地を知るためのアセスメントはとても重要

年間延べ約15,000名の学生が TOEIC® L&Rを受験

グローバル人材に欠かせない英語力の育成については、全10学部中9学部が新入生のTOEIC L&R受験を必須とし、そのスコアを入学段階のプレイスメントテスト等に活用しています。在学中も、自己啓発やレベルチェック、語学プログラムの応募要件、単位認定など様々な場面でTOEIC L&Rスコアを活用しています。そのため、ほぼ毎月いずれかのキャンパスでTOEIC L&R 団体特別受験制度(以下、IPテスト)を実施しており、年間のIPテスト延べ受験者数は約15,000名に上ります。

さらに政治経済学部では、2017年度から学部の留学プログラムに即応できる知性と語学力をあわせ持った学生を広く募集することを目的として、TOEIC L&R および TOEIC S&Wをはじめとする外国語検定試験のスコアを活用した「グローバル型特別入学試験」を導入しています。

現状を正確に把握し、自己管理できる アセスメントツールとして最適

明治大学がTOEIC L&Rを採用する理由について、横川特任准教授は次の3点を挙げています。1つ目は、アセスメントとしての品質です(資料2)。「在学中の学習計画や目標設定、学習成果を確

認する上で最も重要なのは、入学段階の英語力を正確に把握することです。また、TOEIC Programは『Equating(スコアの同一化)』という統計処理を行うなど一貫した評価基準で採点されているため、年度を通じて変化を追うだけでなく、例えば5年、10年前の平均スコアなどと比較して学生の英語力を分析することもできます」と語ります。

2つ目は、スコアの社会的評価と汎用性です。近年、明治大学は、海外大学への働きかけによって、「カリフォルニア大学サマーセッションズ」など応募要件にTOEIC L&Rスコアを活用できる留学プログラムの数を増やしています。これは、世界約160カ国で実施、評価されているTOEIC Programだからこそ可能なことであり、学生にとっても身近なTOEIC L&Rスコアで留学にチャレンジできることは大きなメリットとなっています。

そして3つ目が、学習管理に資するツールであることです。TOEIC Bridge Tests、TOEIC L&R、TOEIC S&Wなどで構成されたTOEIC Programは、実施団体・個人の目的やレベルに応じて最適なアセスメントを選択でき、習熟度を合否ではなくスコアで評価します。横川特任准教授も「目標や学習成果を目に見える数値で正確に示せることは、学習者の意欲を向上させます。さらに、TOEIC

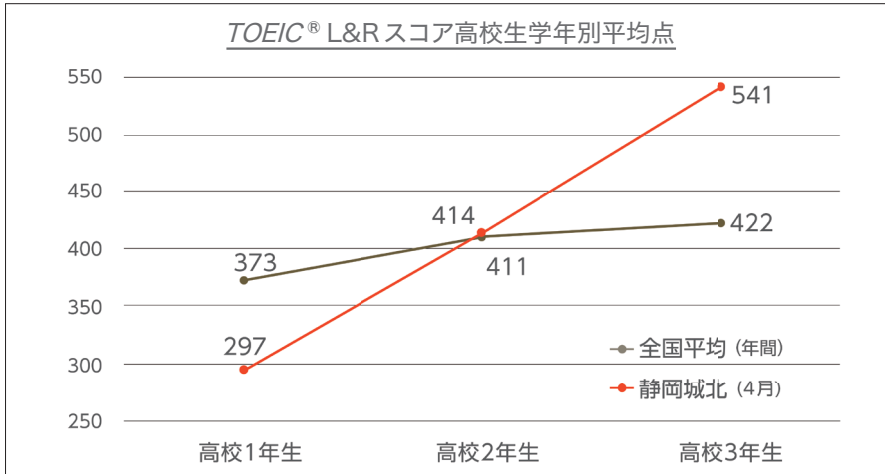
Bridge Tests・TOEIC L&R・TOEIC S&Wと段階を踏むことで、高校から大学、企業と所属が変わっても一貫した指標でスムーズに英語学習を継続していくことができます」と高く評価します。

静岡県立静岡城北高等学校 TOEIC® L&Rスコアが 約2年間で平均約240点アップ

静岡県立静岡城北高等学校国際科の担任を務めた西田教諭も、大学入試のその先を見据えた実践的英語力を生徒に身に付けさせる上で、TOEIC Programが最も効果的なツールだったと振り返ります。今春卒業したクラスでは、1年生の4月からの約2年間でTOEIC L&Rスコアの平均が約240点上昇(資料3)。1年生の1学期は57.9だった模擬試験の英語の偏差値も、2年生の3学期には64.1に上がりました。生徒たちの中には、TOEIC L&RとTOEIC S&Wのスコアを活用し、第一志望の上智大学文学部英文学科に公募制推薦入試で合格したケースもあったといえます。

西田教諭も、明治大学や上智大学に限らず、近年、高い英語力を身に付けた生徒を積極的に評価し、求める大学が増えてきたと感じている1人。大学の英語教育の変化が社会からのニーズによるものであることを意識した指導が、高校の英

(資料3) 静岡城北高等学校国際科 (2018年度卒)のTOEIC® L&R平均スコアの伸び



入学時は全国平均を約80点下回っていた平均スコアが、高校3年生の4月には全国平均を大きく上回った



静岡県立静岡城北高等学校の西田大教諭

語教育にも求められていると指摘します。

TOEIC® Programは 高校生にも有益な“実生活英語”

これまで、高校をはじめとする教育現場ではしばしば「TOEIC Program＝ビジネス英語」と捉えられてきました。しかし、「約20年間、英語教員として教壇に立つと同時に自らテストを受け続けてきた経験から、TOEIC Programで使われている英語は、“ビジネス英語”というよりもむしろ、高校生にも有益な“実生活英語”だと考えます」と西田教諭。「最もビジネス的要素が強いと思われるリスニングセクションにも、解答する上で政治や経済の専門知識を必要とする設問はなく、ラジオや公共施設などのアナウンスは誰もが日常的に耳にするものです」と強調します。

教育現場で西田教諭が重視するのは“評価”です。「生徒たちは、テストや試験などで良い評価をされると『もっとやってみよう』という気になります。しかし、基準があいまいでブレしていると、評価に対して不安や不満を抱き、モチベーションを下げてしまいます。その点、TOEIC Programは、いつ、どこで、だれが受験しても同じ英語力であれば同じスコアが算出される信頼性を備え、社会から

も評価されているため、教員も生徒も安心して活用することができます」と語ります。

“良質”な英語のインプットや アウトプットに公式教材を活用

西田教諭は、日常的に授業の冒頭でTOEIC公式教材を使った音読を取り入れているといいます。その方法は、ペアを組みリスニングセクションで出題される会話問題を音読するというもの。役割を入れ替えたり、別冊の日本語訳を見ながら英語で音読したり、1人で早口言葉のように音読したりと、1つの会話文を様々な方法で何度も音読します。「同じ英文を何十回と繰り返し音読することで、英文をそのまま頭の中に記憶させます。ここで重要なのは、音読でインプットする英語が“良質”、つまり国際的に実生活で使われており、そのまま実際の場面で使えるものということです」。

また、音読による良質な英語のインプットと同時に、公式教材を活用してインプットした英語をアウトプットする活動も行います。その1

つが、TOEIC Speaking Testにある写真描写問題のように、黒板に投影された写真を見ながらペアで話し合う活動です。「机間巡視をしていると、音読でインプットした単語や英文が次々に生徒の口から自然と出てくるのを耳にします。上手に話せている生徒には積極的にクラスメートの前で発表してもらい、自信を付けさせるのも工夫の1つですね」。

西田教諭によれば、生徒が上手に英語を話せているのは、アウトプットの練習をしたからではなく、徹底的に音読をして良質な英語を頭にインプットしたからとのこと。生徒は音読でインプットした英語が増えれば増えるほど、それをアウトプットする活動にも積極的に参加するようになるといい、「インプットとアウトプット、双方の重要性和関連性を生徒自らが



黒板に映し出された写真を見ながら英語で説明し合う生徒たち



グローバル社会を見据えた英語教育について語り合う2氏(左から横川綾子特任准教授と西田大教諭)

実感することで、それがさらなる学習のモチベーションとなり、英語力向上につながる好循環を生んでいるのだと思います」と熱く語ります。

まとめ

大学入試にとらわれない

生徒の将来につながる英語力を育成

“Authentic(実用的)な英語力”について考えるとき、西田教諭はある学校で参観したツタンカーメンを題材とした授業を思い出すといいです。「そのクラスでは、どの生徒も皆真剣に授業に取り組んでいました。ところが、テーマや語彙が

どれも専門的かつ限定的で、ふと『彼らは将来、外国人とどのような場面でこの単語やフレーズを使うのだろう』と思ったのです」。

横川特任准教授も「確かに高校の教科書などを見て、この英文は一体誰のために、何の目的で書かれているのかと疑問に思うときがあります。現実感を伴う英語素材を提供できているか、社会に出たときにきちんと使える英語力を身に付けさせているか、私たちは常にそのことを意識して目の前の生徒や学生の指導にあたらなくてはいけないと思います。大学入試や定期試験のためだけの英語では、

今のグローバル社会には対応できません」と同様の課題を指摘します。

続けて、横川特任准教授は「最終的な英語力の伸長は学習者である学生自身の努力によりますが、個々のレベルや目的に応じた学習環境を整え、指導することで、私たちは学生一人ひとりがグローバル社会で夢を実現できるようサポートしています。世界中の企業等で認知・活用されているTOEIC Programを高校や大学から取り入れることは、彼らの将来につながる実践的英語力を身に付けさせる最も効果的な方法の一つといえるでしょう」と締めくくってくれました。

IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

【東京】〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.(03)5521-5901
【名古屋】〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル TEL.(052)220-0282
【大阪】〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL.(06)6258-0222

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of Educational Testing Service, Princeton, New Jersey, U.S.A., and used in Japan under license.

本資料の無断転載・複製を禁ず(2019年5月)